

第1号議案 平成29年度事業報告承認の件

平成29年度事業報告 (総括)

平成29年度募集委員会では、4月より「新規立ち上げ学科検討会」スタートし、財政基盤安定化を図るべく学科の構築と、従前の募集要項を刷新してプロのデザイン会社に依頼した。

また、ホームページによる募集案内に広く一般に知らしめるべく対応をした。

以上の結果、新規学科としては、「OMOTENASHI 科」、「美とアートを巡る科」の2科と従前の学科の名称変更8学科合計10学科と5期歴史ロマン（古代）の編入で募集したが、「世界史の中の音楽を学ぶ科」歴史と文学の魅力に迫る科」の2学科が定員未達のため急遽特別講座として開講することとなった。そのほかにも「地域福祉を学ぶ科」「OMOTENASHI 科」「健康スポーツ科」と合計5学科定員未達のため次年度に向けての最優先課題として講座企画部を立ち上げ、CA、卒業生を新たにメンバーに加えてジャンルを問わず受講生のニーズに合ったカリキュラムの構築し、募集委員会との共同で、定員確保出来る学科を検討していくこととなった。

◆当カレッジ全体の柱となる「地域福祉を学ぶ科」を政策講座として、地域密着講座とし北摂5市1町（高槻市・吹田市・豊中市・箕面市・池田市・豊能町）それぞれで募集したが、応募者未達で豊中教室に一本化して開講の運びとなったことは、今後の福祉講座の重要な検討課題となった。

◆新学科としてYMCAの協力による共同講座（OMOTENASHI 科）を大阪市内のYMCA教室にて募集するも、共同事業のため十分な学科コンセプトをカリキュラムの検討に際し意思疎通ができずに応募者に対しての説明不足の感があった。

◆教室と事務所の拠点発掘と確保について、新規教室として東淀川区民センターが候補に上がり、条件的には満足のものではあったが、北部を中心に展開している当カレッジとしては、摂津教室で従前どおりの開講としたために今後の検討課題となった。

従前からの懸案の教室問題、特に関西アーバン銀行教室の代替と新たな交通に至便な教室確保を渉外部と一体となって確保する事が重要課題である。

一方、事務所拠点では茨木事務所と豊中事務所の一本化を図り意思の疎通に努めるべく、豊中市に一本化し、30年度より業務を遂行することとした。

◆5期目を迎え、当カレッジの中長期的（3年～5年先）な視野で、あるべき姿検討会を推進メンバーにて検討に入った。

- ・組織の見直し
- ・人材発掘
- ・ONCCの戦略
- ・各部への提案
- ・入学から卒業までのサポート体制と次年度中に纏めて指針を示すこととなった。

◆豊中市ネットワーク立ち上げに伴い、廃校予定の建物の指定管理をYMCAと協働で取得できないか検討したが、結果は膨大な維持管理費用が発生するため断念した。今後も継続して懸案の課題克服をすべく情報を的確に把握する。

一方、「市民大学」（100歳大学）立ち上げに向けて既に検討委員会を立ち上げ31年度を目途に開

講の準備をしている。

◇教務部においては、東西のエリア制を廃止し、人身を一新し、クラスアドバイザー経験者が中心で、新任のクラスアドバイザーのフォロー体制で臨んだ。

教室情報をリアルタイムに発信すべく夏休みにブログ研修会を開催し各科の特徴のあるブログが発信された。

◇事業部では福祉事業（助成金事業等）をふれあい事業推進部移行して公開講座を中心に展開すると共に、次年度開講予定講座のプレ講座として取り組んだ。

また、4年半に及ぶ源氏物語 54 帖全てを終了した。5 周年記念行事は収益面では寄与出来なかったが、事業全般でONCCの財務基盤に寄与した。

◇事務局においては、新体制で3点の改革に取り組んだ。ペーパーレス化、事務所の一本化、大阪府指定認定NPO取得準備、結果的には3月に豊中で新事務所を一本化することになり、30年4月に移転し、業務を遂行することとなった。

◇募集委員会では、募集要項デザインの刷新（プロのデザイン業者に依頼）しパソコン、スマートフォンでの閲覧も可能にしたが、結果は定員未達の学科 5 学科あり、次年度は定員確保を最優先に3月から新たに講座企画部を新設し、クラスアドバイザー、受講生に参画頂き新規学科の検討会を始めた。また、次年度募集に向けてホームページの充実を図り受講申し込みなども出来るシステム導入を検討している。

◇広報部では、教務部・事業部・事務局との連携を図りながら、HPの運用拡大し、CA・受講生対象の講習会を実施して、リアルタイムに発信できた。

また、公開講座のチラシ作成や「ONCC NEWS」年間2回の編集し発行した。

◇渉外部は、北摂各市町の行政と同窓会、SA、社協などとの協力体制構築に務めたが、行政との共催にまでは至らなかったが、北摂各市・町に募集案内が広報誌に掲載された。

新規にYMCA共同講座を開講することとなったのは喜ばしいことではあったが、初めてのケースで、運営面において今後の課題を残した。次年度に向けて、今年に2月に同窓会連協が分裂したため、北摂7同窓会との交流を今までに倍して深めていきたい。

◇ふれあい事業推進部では設立趣旨に沿って地域交流、高齢者支援や身体の不自由な方への支援や子育て支援に寄与した。

また、キリン財団助成金事業として全身性ガイドヘルプ講座の実施、大阪府福祉基金助成金事業として「地域福祉学ぶ科」講座に貢献した。

残念ながら永年継続されていた「花と野菜のガーデニング」講座は応募者が減少した為30年度から中止となった。